

パブリッククラウド+オンプレに対応したハイブリッド型セキュリティポリシーの研究

【オンラインライブ】 (4124073)

セキュリティ・ポリシーのサンプルを利用し、例題よりどのようにパブリック・クラウドに対応するか、運用面、規定類の変更事例を紹介し、最終的にセキュリティ・ポリシーが、オンプレ用、パブリック・クラウド用と2つ存在しないように、勘所をつかみます。

開催日時	2024年10月23日(水) 9:00-16:00ライブ配信
カテゴリー	共通業務(契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理)・セキュリティ・システム監査 専門スキル
講師	石橋正彦 氏 (サイバー研究所 所長) ベリングポイント(現PwC)においてセキュリティ監査人/ベンチマークに従事。その後、ガートナーにてセキュリティ、BCP/DRのリサーチ業務に従事。ISOの審査員を経て、国内で最もISOを取得した企業(6規格統合運用)に在籍し、効率の良い内部監査や従業員教育を実施。JUASでは研究会に12年在籍し、講師を6年に渡り実施。現在ではコンサルファームに所属。
参加費	JUAS会員/ITC: 35,200円 一般: 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信(指定会場はありません)
対象	情報システム部門のSE、コンサルタント 職務: 営業/開発/管理部門 レベル: システムエンジニア初級 中級
開催形式	講義・個人演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

ライブ配信 (Zoomミーティング) [【セミナーのオンライン受講について】](#)

■テキスト

開催7日前を目途に発送 (お申込時に送付先の入力をお願いします)

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

企業ではDXで「素早い開発、素早い本番リリース」が優先され、オンプレで培った内部統制/セキュリティ対策が講じられないシステムが散見されるようになって来ました。

パブリック・クラウドの運用や規定が手探り状態で、情報システム部門の見解が確定しないまま、規定類の変更ができるでしょうか。

本セミナーでは、セキュリティ・ポリシーのサンプルを利用し、例題よりどのようにパブリック・クラウドに対応するか、運用面、規定類の変更事例を紹介します。

最終的にセキュリティ・ポリシーが、オンプレ用、パブリック・クラウド用と2つ存在しないように、勘所をつかみます。

◆主な研修内容:

第1部 はじめに

- ・本セミナー受講の前提条件
- ・セキュリティ・ポリシーの構造と流れ/体制の定義
- ・PDCA/アセスメント/内部監査の前提
- ・サイバー・セキュリティとは
- ・インシデント・レスポンス、トリアージとは

(演習1) ランサムウェアを受けた際の、トリアージと復旧パターン

第2部 パブリック・クラウドの前提条件

- ・クラウドの定義・パブリック・クラウドの最近の動向
- ・AWS/BOXなどのパブリック・クラウドの一般的な構成
- ・DX案件で本番リリースしたクラウド・システム事例
- ・リリース後に、情報システム部門が気が付いた懸念点(解決策)

第3部

クラウドならではの内部統制/委託先から質問を受けやすい部分

- ・セキュリティ製品/サービスの定義、
- ・IAM (アイデンティティ&アクセス管理) の特権ID管理
- ・内部統制で必要とされる、基本的なアクセス管理

- ・クラウドの認証連携（フェデレーション）、SAML/ADFSの有効利用
- ・一般的な犯罪捜査と特権ID操作ログ管理の有効性

第4部 パブリック・クラウドのツールの有効性と懸念点

- ・アプリケーション・セキュリティ（脆弱性診断やペネトレーション・テスト）の運用の再考
- ・データ・セキュリティ（暗号化とDRM、トークナイゼーションやCASB）の分類、運用の複雑さ
- ・SOCは自前かサービスか、責任範囲をどのように定義して規定に反映させるか

第5部 今後の内部アセスメントとセキュリティ

- ・ポリシーの維持
- ・年間監査計画と予算について